メガネサナエ *Stylurus oculatus* 繁殖場所における活動の年変動と生態的特徴

○谷野宏樹・宮坂真司・筒井裕文・北野聡（長野県諏訪湖環境研究センター）・福本匡志（長野県農業大学校）

トンボ目昆虫では生息環境の多様な選好性がよく知られており、河川や湖沼において様々な環境要因との関連が報告されてきた。そのため、トンボ目昆虫は環境の指標生物として活用されてきたものの、同時に環境改変に伴う生息環境の減少から希少種として扱われる種も多く知られる。長野県の諏訪湖周辺には希少種であるメガネサナエが分布しているものの、成虫の繁殖は一部の場所でしか見られていない。そのため、限られた繁殖場所の維持と成虫の生態的特徴の把握が喫緊の課題である。本研究では、2019 年より諏訪湖周辺で継続的に実施されてきたモニタリング調査の結果を用いることで、本種の生態的特徴の把握を目指した。継続的な個体数と観察地点、照度や温度、相対湿度といった環境要因について検討することで、本種の活動場所が年々変化している可能性が示唆された他、照度が高いほど活発に活動しているなど、一部の生態的な特徴についても究明することができた。